

流尾洲嶼ノ間ニ相會シ以テ互ニ聯絡ヲ通ス。就中桂川ヲ最
大トシ巨礫害トナルヘキ物質ノ流出モ亦最多トス津田港ノ
水利ハ己ニ之ヲ為ニ妨害セラル、浦ノモノナリ。

沿川ノ平地、及川床ノ事

遙カニ上流ヨリ池田村ニ至ル間ニ各ヶ所ニ野川ハ兩岸草木
鬱々ノ間ニ通シ或ハ岩壑發トシ立、間ヲ過キ巨岩ニ成レ
ルノ壑ヲ墮工各種ノ景ヲ所々ニ奏ス。此部分ハ川面ノ傾斜
頗ル大ニシテ且傾斜ノ緩急一定セズ岩塊粗礫ヲ以テ壑為ス
ル所ノ礙滯洲渚アルヲ為ニ所々流水ニ階段ノ如キ灘状ヲ呈
ス。毎所礙滯ハ大小急瀬ヲ起シ水面ノ落差一面以上ノ多キ
ニ至テハ低水ノ時僅々數寸ノ深サヲ以テ流ル。急瀬ノ間ニ
ハ散ケ所モ傾斜微小ニシテ速力ノ衰減スル所アリ、但シ深
淵ヲナス所ニテ其前ノ如キハ七丈五尺ノ深キヲ致ス
礙滯セル洲渚ノ中最大ナルハコイマル川ヨリ流出シタル漂
着物質ニ成立スル若之ナリ頗ル急流トスルコイマル川ノ濠
口ヨリ下流八丁ノ間ニ連続スル所ノ斯大洲渚ハ其質燧石岩塊

融解シ互ニ連絡をす
就中、殊に、

ソウ、上にさし出す。

ワウ、母本のしけるさま。

シ、ほとんど。

ソウ、ほとんどよりする。

ソウ、フくる

融解洲渚ニ支ミラルトゴボル

灘状ニ類ノヨリナ状態

重ん、たづかた。

礙滯アル、おとろへほうびること。

中でも桂川は最大で（河川の）障害となる物質（土砂）の流出も最
も多い。津田港の水路もこのために妨げられているのである。

沿川の平地、及び川（河）床のこと

遙か上流より池田村（池田町池田）に至る間の吉野川は草木が鬱蒼
と繁茂した間を通り、または川岸がほとんど垂直にそそり立った間を
通り、巨岩からなる谷を流れて、各種の景観を生じている。この辺り
は水面の勾配がすこぶる大きく、その上勾配の緩急が一定でない。岩
塊と荒い礫岩からなる「礙滯洲渚」があるために、所どころ流水が階
段式の瀬状をなす。各所の礙滯は、大小の急瀬に続き、瀬の落差が一
間以上に達するが、低水の時にはわずかに数寸の深さである。急な瀬
の間には、何か所も傾斜微小で流速が落ちる所がある。しかし深い淵
を形成するところは、深さ七丈五尺程のものもある。

礙滯した洲渚のうちで最も大きいのは、祖谷川から流れ出た漂着物質
（土砂）によって形成されたものである。大変な急流である祖谷川の合
流点から下流八町の間に連続する大きな洲渚は、その岩質は燧石岩塊・

※1 礙滯
妨げられて滞ること

※2 一丈
一丈＝一〇尺＝約三メートル

燧石礫砂粒ニ成レリ低水上高數向アリ之ニ激シ
 テ以テ二条ノ急瀨ヲ送ル之ヲテテ大瀨ト唱フ吉野川
 航行上ノ最急險ナル一所トス
 此野ヨリ上流ニ至テハ幹支ノ流川ニモ平地ヲ見ザルナ
 リ○上地ニ始メテ平地ヲ見ルハ池田市區ノ立ツ所即之
 ナリ○川ノ右岸ニ沿ヒ山嘴延長シテ頗ル宏大ナル堤防
 ラテシ洪水ヲ支障シテ以テ池田ノ市街ヲ擁護ス
 夫ヨリ較下流ニ至テハ山嶺遙カニ右側ニ閑キ且ツ左側
 ノ山趾モ亦漸ク遠隔ス○此所ヨリ閑張スル吉野川大谷
 谷ハ其間ニ起伏不平ノ廣野ヲ保テリ地質(畑地)ハ粗鬆
 ニシテ燥キ易ク向マ之ニ礫砂ヲ混ス○一般ノ地面ハ其中ヲ
 屈曲横行スル所ノ川床面ニ比スレバ概シテ高シ○其
 地面ニ高低不平ヲ生セシ所以ノ者ハ其原固必ス兩側
 諸溪ヨリ流送シタル物質ノ多寡ニテラシカ○一例ヲ挙ゲ
 テ之ヲ証センニ左側コヒ谷ノ如ク流送物ノ甚ク多ク流
 水ニ至テ少キ一溪水ノホニハ土石積シテ平地ノ上ニ高
 堆ス○又一例ヲ挙ランニ右側ノ半田川ノ如ク流水常
 ニ多ク流送物ノ寡少ナル者ハ其作用例ニ反シ治川ノ地
 面浸蝕ヲ受ケテ為ニ深長ナル凹窪ヲ生ス
 古来左方ノ山嶽ヨリ流出輸送スル物質ハ量常ニ大ナ
 ルニ由リ吉野川ハ自然豁谷ノ右側ニ偏歎ス
 兩側ノ山嶺ハ遠近所々ニ相迫リ近ツキ其岳河ヲ對峙

岩石・砂れきである。砂洲は低水位より数間の高さになっている。
 この川の流れが激突して二つの急流になり、ここを大瀨と呼んでいる。
 吉野川を航行する上で最も危険な場所の一つである。ここより
 上流で吉野川の幹川・支流とも、川沿いに平地は一所も見かけない。
 上流部で初めて平地を見るのは池田の町並のある場所である。
 川の右岸に添って山稜の末端部が長く伸び、すこぶる大きな堤防
 を形成し、洪水を防いで池田の町を擁護している。ここから少し下
 流になると、右側の山々も遙かに後退して、また左側の山も次第に
 遠のく。ここから開ける吉野川大溪谷は、その間に起伏する平らで
 ない広野を流れる。畑地の地質は粗くて乾燥しやすく、しばしばこ
 の中に大きな石が混じる。地面は一般にその中を曲がりながら流れ
 る河床面よりも大体において高い。地面に高低があり水平でない状
 況を作り出してゐるのは、両側の諸溪谷から押し出してくる物質
 (土砂)の多少によるものである。一例を挙げれば、左側のコセ
 (高瀬)谷のように流出物が甚だ多く、流水の至って少ない一溪谷
 の末(川口)には、土砂は堆積して平地の上に高く積もっている。
 また一例を挙げると、右側の半田川のように、流水が常に多く流出
 物が少ない川では、その作用は前例に反し、川に沿った地面は浸食
 を受け、このため深く長い窪みを形成している。
 古来、左岸の山岳地より流送する物質(土砂)の量が多大である
 ため、吉野川は自然に溪谷の右側に偏っている。両側の山嶺は、遠
 くなったり近くなったりして、所々で切迫して岩山を対峙させてい
 る所が

又ル所アリ瀧宮及岩津ノ両地ニ於ケルカ如キ之ナリ。就中岩津ノ邊リハ横断面ノ狹隘ナルコト復タ池田ヨリ上流ニ於ケルカ如シ

池田ヨリ岩津ニ至ル川床ノ落差ハ猶甚大ニシテ床形不整且變化多シ。流心ハ礫質巨洲ノ間ニ右移左轉シテ常ナキカ爲ニ船道甚々艱難ナリ且之ニ加ルニ危峻調ヲ可ラザルノ礫磯ニ接シ湍水ノ急ナルト碕曲ノ甚シキト共ニ砂少ナラザルノ難事ヲ以テス

岩津ヨリ差ヤ下流ニ於テ該谷ノ地ハ再ヒ廣闊ス夫ヨリ海濱ニ至ル迄左右ノ山脈遙ニ相背シ麓巖壁タトシテ悉次ニ差入。横サマニ洲嶼ヲ跋渉セル一方ノ八幡山ヨリ他ノ撫養山丘ノ麓ニ至ル其距離凡三里アリ。谷下部及洲嶼ノ地質ハ礫谷上部ニ異ナラズ粗鬆ニシテ燥キ易シ(畑地ニ就キテ之ヲ云フ)然リト虽較平坦ニシテ上部ノ如ク高低不平ノ着キマシ

兩河ノ餘此川ニ漲ル大水ヲ阻シ速ニ海ニ達セシムルノ奇能アルモノハ流尾洲嶼ニ至ル迄川面ノ落差倍ニ大ナル以テナリ。谷下部ノ平地ハ其収尾ノ下地ニ至ルモ橋川奈前ノ上

巨洲ニ大きい洲
礫灘ニ難儀
湍水ニはやい流

麓宮一山すそ
跋渉ニ山川を青きまわること

粗鬆

あり、瀧宮(美濃田の淵)と岩津の両地においても同様である。中でも岩津の辺りの横断面の狭さは、池田より上流のような状態である。

池田より岩津に至る河床の落差は大きく、河床の形が不揃いで、変化に富んでいる。流れの中心は礫質の大砂州の間を左右に曲がり一定でないで、船の通過は大変に困難である。またその上、言いようのない危険な岩場に接して、流れの急なためと、屈折の多いために通行は大変な難事である。

岩津より少し下流において、この溪谷はふたたび広く開け、そこから海に至るまで左右の山脈は遙かに離れて、山裾は整いだんだんと遠く離れていく。吉野川を横断して、一方の八幡山(眉山)より、他方の撫養山麓に至る距離は、ほぼ三里である。(吉野川)溪谷の下部及び洲嶼の地質は上流の溪谷部と変わらず、畑については地味が荒く乾燥しやすい。しかしながら(吉野川の下流は)やや平坦で、上流のような著しい高低は見られない。

大雨のため川にみなぎる大水を流し、海に速く到達させる能力は(上流より)河口洲嶼に至るまでの川の勾配の大きさによるものである。溪谷下部の平地は、川の流れが下流になっても、なお河床より高い。このため、

519

ニ移ケリ、是ヲ以テ洪水ノ隘上アリ地地ヲ浸スノ時間ハ短キモノアリ隣テ之ニ及ボスノ水害モ亦應テニ大ナラザルベシ。夫レ然リ而リト雖本年七月下旬我カ実視シタル洪水ノ如ク時トシテ若大ノ水害ヲ伴ヒ來セルアリ是聖竜堤防ノ位置ヲ數ルニ因セルモノナリ

岩津ヨリ下流ニ於ケルノ川床ハ形不整ニシテ變化常ニナシ之ヲ上流ニ比スルモ尚一層甚シトス其故他ナシホニ漂動スル物質ノ量ハ下流ニ至テ益々加ハルガ爲ナリ。此所ニ方リ上砂ヲ混セル礫石ヨリ成立スル所ノ廣大洲渚アリ各洲渚ハ流心ノ変動ニ隨ヒ或ハ増加シ或ハ減欠ス。此等洲渚ノ上ニハ草木ノ叢殺セル所モアリ或ハ耕地トナレル所モアリ。尚又一段大ナル島嶼ニ匹トシキ洲ニハ己ニ村落ヲサエ觀ル所アリ。川床ニ此岩礫石ノ聚積スルヲ觀ルヘモ若ハ上流ヨリ川島町ニ至ルヲ限トシ川邊ニ接シテ横礫ノ崖窟セルヲ觀ルモ亦川島町ノ辺ヲ以テ其收尾トス

礫石ノ堆積ニ至テハ細砂漸ク多シ是し砾礫漂流ノ途中相
 波蕪摩擦シテ己ニ粉碎スルト又川床ノ傾斜スルコトモ隨テ
 進退ナルトニ由レリ然レモ海濱ニ達スルニ非ワレハ洲嶼ノ
 形ヲ
 礫石ノ堆積ニ至テハ細砂漸ク多シ是し砾礫漂流ノ途中相
 波蕪摩擦シテ己ニ粉碎スルト又川床ノ傾斜スルコトモ隨テ
 進退ナルトニ由レリ然レモ海濱ニ達スルニ非ワレハ洲嶼ノ

洪水があふれることがあってもこの地を浸す時間は短いこともあり、従って水害の及ぼす影響は大きくない。しかし、今年（明治十七年）の七月下旬わたしが実際に見た洪水のように、大きな被害を伴うこともあり、これは結局堤防の位置を誤っていることに原因がある。

岩津より下流の河床は、形が不揃いで常に變化する。上流に比べてもその程度は一層甚だしい。その理由は水によって流される物質（土砂）の量が下流になるほどますます多くなるからである。この所に土砂に混じった岩石からなる広大な洲渚がある。それぞれの渚は流心（流れの中心）の変動に従って大きくなったり、小さくなったりする。これらの上には草木の茂っている所もあり、耕地となっている所もある。

なおまた、一段と大きな島に匹敵する州には、すでに集落となっているのを見ることがある。河床に結晶片岩礫が集まっているのを見られるのは、上流から川島町までである。また川辺に接して岩石が山状に延びるのを見るのも川島が最終地点である。

第十村（石井町第十）の近くになると、細砂がだんだんと多くなる。これは岩石が流出の途中で、互いにあつれきし摩擦しあつて、すでに粉碎されたことと、河床の傾斜が緩慢になったことによる。しかしながら、海まで達すること

※七月下旬
 デレーケは七月四日、離徳している
 ので六月の誤りか

51c

51d

間着往々積滞ノ岳河ナルヲ見ルモ畢竟他ノ支川直チニ決河ニ滾瀉スル有リテ之ヨリ流送スル所ノ石砾モ亦夥多ナレハナリ

岩津ヨリ下流水面傾斜勾配ノ事

岩津ヨリ下流ニ於ケル水面ノ高低及傾斜ヲ記載スル所ノ表ナル附録第一ハ唯一面ノ水準測量及僅々七箇月半即明治十六年十一月十五日ヨリ同十七年七月ノ終尾ニ至ル只短小時間ノ水準觀査事ヨリ能ク斷メ得タルノ數ニ原ツク故ニ表中新設三千分一ノ縮図ニ照據セシ川線ノ長短ヲ除クノ外ハ植數皆以テ將來改善ノ起首數ト做ス可キモノ、此表ハ又夕明晰ニ上流ヨリ諸洲澳ノ上第十村ニ至ルノ間水面傾斜ノ殊ニ大ナルヲ示ス看ナリ

洲嶼及川口ノ事

吉野川流尾ニ攢簇セル諸洲嶼ハ第十村ヨリ海濱ニ至ル長四里余アリ又津田村ノ邊ヨリ撫養海峽ニ至ルモ廣幾ント四里余アリトス。畧圖ニ之ヲ示スカ如ク流尾ニ縱横スル派川ノ

ライラ
岳河、その多くかきなつて
滾瀉ニ合流する
夥多ニおびたしい

傾斜

攢簇
サソク
集ること

なく洲嶼の間に砂礫が堆積している。このことは、結局この辺りに集まっている他の支流より流されてくる砂礫も甚だ多いからである。

岩津より下流水面傾斜勾配のこと

岩津より下流の水面の高低と傾斜を書いた表（付録二）は、たった一回の水準測量とわずか七か月半（明治十六年十一月十五日と十七年七月末）の短い期間の水量調査により得た數量に基づいている。このため、新しく作製した三千分の一縮図に照合した川線の長短の他は、數値は將來改訂を要する起首數と見なすべきものである。この表は、また上流より諸洲嶼の上端第十村（石井町第十）に至るまでの水面の傾斜の特に大きいことを示すものである。

洲嶼及び川口のこと

吉野川（旧吉野川）の河口に多く集まる洲嶼は、第十村より海濱に至る四里余りの間にある。また津田村（徳島市津田町）の辺りより撫養海峽に至るまでおおよそ四里余りの幅がある。略圖にこれを示したように、河口に縦横に通じる派川の間、沖積土から成る洲嶼が数多くある。

※1 付録二
所在不明

※2 川線
流路の長さ

※3 略圖
所在不明